

A I を活用し、不正取引検知モデルを構築！

京都銀行（頭取 安井 幹也）は、マネー・ローンダリング対策ならびに金融犯罪対策の実効性向上のため、A I を活用した不正取引検知モデルの運用を開始しましたのでお知らせいたします。なお、本モデルは当行の蓄積データを基に、株式会社 N T T データ（代表取締役 鈴木 正範）の支援を受け構築したものです。

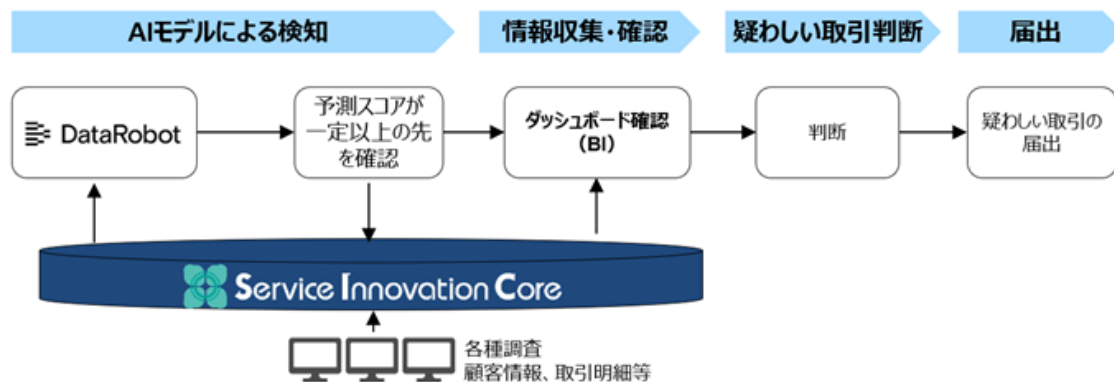
本モデルは、当行が保有する過去の疑わしい取引の届出の実績を A I に学習させたうえで、取引データごとに不正取引の予測を行うものです。

本取り組みにより、従来手法を補完する新たな不正取引の検知を実現する他、検知後の不正取引の判断にかかる情報収集・確認による作業負荷の削減が期待できます。

当行では、今後もお客さまの大切なご預金を守り、より安心してご利用いただけるサービスの提供に努めてまいります。

以 上

（ご参考）



図：AI×BI による不審取引検知高度化